

＜終わりの始まり＞

マルコ 13 : 1～13



日本二十六聖人殉教記念碑 長崎

弟子 「なんてすばらしい建物だろう！」

イエス 「この宮は、やがて壊されて跡形もなくなる」

紀元後 70 年ローマ軍によって破壊され跡形もなくなってしまう。
何故？！

キリストによる新しい時代が到来したから。

「ここに宮より大きな者がいるのです。」 マタイ 12 : 6

「この神殿を壊して見なさい。私は 3 日で建てよう。」 ヨハネ 2 : 19

◆ 神殿で捧げられていた罪の赦しのためのいけにえは、神の子羊として十字架で血を流されたキリストの贖いによってもういらなくなった。今は、悔い改めて神に立ち返る者は、誰でも赦されて救われる。

永遠になくならないものが、本当に偉大。

また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

黙示録 21 : 1

神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。

黙示録 21 : 3、4

＜終末の前兆として起こること＞

「終りの始まり」は、神の支配、神の国の完成というゴールに向かうスタート。

- 1、自分こそメシヤだと自称する者が現れて、多くの人を惑わす。
- 2、戦争が起こり、又戦争のうわさを聞く。平和は失われ民族同士や、国どうしが戦う。
- 3、各地に地震が起こり、飢饉も起こる。自然災害が多発。
- 4、迫害がある。しかし、迫害を通して証しをする機会が与えられ宣教が前進する。

今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。 □-マ 8 : 1 8

今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

Ⅱ コリント 4 : 17, 18

* 日本二十六聖人の殉教とその後

「証人」・「殉教者」はギリシャ語 μάρτυς マルトゥス。同じ言葉。

「自分はクリスチャンです」という旗印を誰にでもわかるように、高く掲げよう！